やさかだより 11 No. 119

八坂地域づくり協議会　https://www.shinshu-yasaka.com　2026年（令和８年）11月１日

11月号の記事

協議会の活動から　…2
八坂地区敬老会
地域の活動から　…3~5
おらほの学校やさか　…5~7
たけのこ保育園　…8
山留の風、八坂公民館　…9
話題の八坂人　…10



仁科宰知代さん（88）　勝野 連さん（95）　若林信子さん（90）　松井清家さん（90）

八坂地区敬老会開催「いつまでもお元気で」

※年齢は令和８年３月３１日現在



八坂地区の人口：644人（男 326人･女318人）　八坂地区の世帯：341 世帯（令和8年10月1日現在）

地域づくり協議会の活動から

期日	区　分	内　容　等
9/15	やさかだより編集会議	・11 月号記事の内容について
9/21～	秋の交通安全運動	・街頭指導　（9/21～9/30）
10/5	地域間交流事業実行委員会	・八坂秋まつりの開催内容について
10/24	八坂秋まつり・八坂地区文化祭	・八坂秋まつり、八坂地区文化祭１日目
10/24～25	八坂地区文化祭	・各種展示及びステージ、にぎわい広場

9月26日　八坂ビューポイント整備　唐花見湿原木道整備



9月26日（土）八坂ビューポイント整備「唐花見湿原木道整備」を行いました。当初の予定では木道に防腐剤を塗布することでしたが、あいにくの雨となり急遽、木道の清掃や枝払いなどを行い短時間で済ますことにしました。作業後は地域振興部長の北澤豊繁さん差し入れのたけのこ汁をいただきました。雨の中の作業で冷えた体を温めることができました。ありがとうございます。防腐剤塗布は後日晴天の日に行います。

八坂地区敬老会から







当日は、たけのこ保育園のおゆうぎや八坂小中学校の合唱があり、皆さん大喜びでした。









食を楽しむ会　北澤三恵子さん
毎年おいしいお赤飯を用意していただきありがとうございます。

～地域の活動から～大平・中央



《２年ぶりの子ども会》

夏休みも終わり間近の８月23日（日）に大平基幹センターで２年振りの子ども会が開催され総勢18名の子どもが参加しました。

内容は、スイカ割りに始まり、流しそうめん、わりばし射的、ビンゴ、ＢＢＱに最後は花火と盛り沢山で、子どもからは翌日になっても「楽しかったー」という声が上がる程いい思い出になったようです。６年生を中心に親達の指導のもと子どもたちみんなの手で準備をして片付けまで終えることができました。

いつも温かく見守ってくださる地域の皆様のお陰で子供達はこの八坂ですくすく育っています。これからもどうぞよろしくお願いします。



《バスハイク》

９月27日（日）は恒例のバスハイクで穂高・堀金地区の国営アルプスあづみの公園へ行きました。

今年は台風の影響で長雨の続く中でしたが、この日は時々晴れ間が覗くウォーキングには丁度よいお天気の中、子どもは３歳～13歳の９名、大人は老若男女22名の参加という盛況ぶり。

公園内はコスモスが盛りで、色んな色の花が咲き広がる景色に囲まれ、子どもはアスレチックで駆け回ったり、大人はお花の摘み取りを体験したり、それぞれに散策をして最後は集合してお弁当を食べました。

バスハイクはみんながリラックスして交流できるいい機会になっています。

大平自治振興会　三根　純子





実りの秋を迎え、一の瀬地区では、今年も無事に秋祭りを執り行うことができました。私たちの暮らしを見守ってくださる氏神様へ、今年一年の豊かな実り、無事への感謝をお伝えし、また地域の皆さんの健やかな暮らしと繁栄を祈願いたしました。今年は参加者も増え賑やかなお祭りとなりました。

中央自治振興会　神尾　悠





～地域の活動から～切久保・野平



切久保地区の例大祭が９月27日（日）に行われました。祭りを前に、金曜日の夜には氏子の皆さんが集まり、灯籠張りを行い、当日は朝から社殿や拝殿、境内の掃除をして、祭りの準備を整えました。午後になると、笛や太鼓の祭囃子が響き渡る中、みんなでお宮へ向かい、宮司さんをお迎えしました。境内では獅子舞を奉納し、祭りを盛り上げました。地域の子どもたちが少なくなる中、今年も山村留学生が参加してくれたことは、とても嬉しいことでした。地域の皆さんと力を合わせ、これからもこの大切な伝統を次の世代へつないでいきたいと感じています。

切久保自治振興会　福野　佳和







10月3日（土）、4日（日）の2日にわたって野平神社例大祭を執り行いました。朝から氏子の皆さんを中心に集まり境内と周辺の清掃。屋根に積もった杉葉から地面の雑草まで隅々まで手入れをし、夜から神事、神楽、獅子舞奉納しました。また則枝千絵さんのバリ舞踊の舞の奉納もありました。子供も大人もこの日のために一生懸命練習してきました。翌朝、集落をお囃子とともに練り歩きながら集落入口の道祖神前、二か所で獅子舞、神楽を奉納しました。神楽殿からの獅子舞も迫力がありますが二日目の獅子舞は距離感が近い分、さらに力強く迫力があり非常に素晴らしい獅子でした。お囃子を演奏しながら、1㎞ほど歩き続ける。高度な技術を持ち合わせていないとできないことだと思います。乱れることなく音も美しく大人たちの熟練の技術と子供たちのエネルギーが調和していました。



自分が子供の頃は、ちょうど八坂村が大町市、美麻村と合併した頃で人口は、１０００～１１００人位だったと思います。20年経って今は６６０人。20年で４割減。いまでも昔のように獅子舞を見れること、お祭りを行えることが当たり前のことではなくなっていると、そう感じずにはいられません。

野平はその頃と同じか、それ以上の子供たちがいます。移住者さんと地元の皆さんが、お互いを尊重し支えあってきた形の一つが今の神楽保存会なのかもしれません。子供たちが楽しい思い出として記憶し、次世代へ継承されることを祈っています。

野平自治振興会　佐藤　忍

～地域の活動から～石原（横瀬地区）



石原自治振興会　伊多波　拡丈

横瀬地区で10月10日土曜日に秋の収穫祭のお祭り、次の日の日曜日には大黒様のお祭りが行われました。

日曜日には、山村留学の小中学生が横瀬地区について質問をして昔からいる住民が答えているのを聞いて、Ｉターンで来た人もヘェ～となりました。

コミュニティ・スクールだより

おらほの学校やさか

八坂小中学校前期課程・後期課程

・10/2　やまびこ祭
・10/3　音楽会



たけのこ保育園　うた

音楽会スローガン「響け　空こせ　われらの鼓動（ビート）」に向かい、友と協力しながら練習を重ねてきました。音楽会当日は、声で、音で、表情で、体で練習の成果をせいいっぱい表現することができました。保護者の方より「どの学年も上手で感心しました。」「歌や演奏の細部から練習の成果が垣間見え感動しました。」「みんな頑張って練習の成果が出ていてとても良かったです。」と温かい感想をいただきました。たけのこ保育園の皆様にも参加いただき、また最後の「ふるさと」は地域や保護者の皆様にも一緒に歌っていただきました。地域の皆様には温かい拍手をいただきありがとうございました。



１・２年　オペレッタ



１・２年　オペレッタ



５・６年　合奏



全校合唱







３・４年　合唱

第50回学習総合発表会「やまびこ祭」
Bloom みんなの力で大輪の花が咲きました





10月2日（金）に学習総合発表会「やまびこ祭」が行われました。今年は学習総合発表会が始まって50回目という記念すべき年となり、生徒たちもこれまでの歩みを振り返り、新しい花を咲かせる「Bloom～半世紀のバトン、咲かせる未来～」をテーマに準備を進めてきました。50年を振り返るオープニングで幕を開けた開祭式。ポスターセッション形式のやさか人間塾の発表、保健体育の時間に練習してきたダンス。「しゃべり場やさか」は、様々なお題について子どもたち、地域の方、保護者の皆様、職員が一緒になって話し、和気藹々とした楽しい時間となりました。

昼食の後はお待ちかねの八坂タイムフリーステージ！ピアノ演奏あり、バンド演奏あり、ロケットの打ち上げありの、それぞれの「好き」がつまったステージとなりました。50周年記念イベントでは、参加者全員でつくった人文字とバルーンリリースが行われました。人文字は上條先生操縦のドローンから撮るときれいに50回の文字が浮かび上がっていました。みんなで飛ばした色とりどりのバルーンが、青空に見えなくなるまで見送っている子どもたちの姿が印象的でした。













やさかツアー、夢フェスの開催



10月17日(土)やさかツアーと夢フェス開催されました。秋晴れの中で開催でき、鷹狩山頂からの眺望も参加者の皆様にお楽しみいただけたのではと思います。詳細は次号コミュニティスクールでお伝えします。

民話グループの皆さんの現地での読み聞かせはライブ感があり参加者の皆様に好評でした。







たけのこ保育園



10月のハロウィンに向けて保育園でとれたおばけカボチャを子どもたちとランタンに加工しました。中身をくりぬき、顔を切り取りました。中々難しい所もありましたが、小さいカボチャは子どもたちだけで作りました。

ＬＥＤのろうそくを入れたらランタンの出来上がり！ちょっと早いハロウィンを楽しみました。10月30日には、八坂小の１・２年生とハロウィン交流として，仮装し八坂の地域を回ります。見かけたら、声をかけてくださいね。















９月30日（水）に、たけのこ保育園ミニ運動会を行いました。保護者と楽しむ運動会で、「きんたろうさんに野菜を届けよう！」では、普段行っているサーキット（障害物）で、平均台やバーとびジャンプや鉄棒をクリアーし、野菜をきんたろうに届ける種目です。楽しみながらできるようになった運動を披露しました。保護者だけの縄跳びリレーも盛り上がりました。（笑）



シルバーウィーク初日となったこの日、センター前の棚田も黄金色に色づき始め、いよいよ稲刈りを迎えました。４月の田起こしから約5カ月。代掻きや田植えなど、さまざまな作業を経て、今年も無事にこの日を迎えることができました。センターでは、米作りの大変さや、食べ物への感謝の気持ちを感じてもらうため、今年も手作業で稲刈りを行います。

まずは、ペアになって鎌で稲を刈っていきます。鎌を使い慣れていない子は、「難しい…」、「こうかな?」と苦戦している様子もありましたが、何回も使っていくうちにまっすぐ稲を刈れるようになりました。ある程度束ができたら、中学生を中心に結束をしました。稲がほどけないようにきつく結びます。「これ緩い?」、「もっときつく!」と声を掛け合って作業を進めていました。

最後に稲架（はぜ）掛けを行います。稲を逆さにして干すことで、稲の茎に溜まった栄養がお米に届き、より美味しくなるそうです。稲の束を稲架棒にきれいに敷き詰められたら、すべての作業が終了。ここから2～3週間ほど稲を干し、脱穀を行います。子どもたちは早速新米を楽しみにしているようでした。

八坂公民館から　高砂大学「郷土視察」～野尻湖周辺　10/15（木）

「一茶記念館」「ナウマンゾウ博物館」を見学しました







10月15日(木)に八坂公民館「高砂大学」郷土視察として野尻湖周辺のバスツアーを開催しました。

当日は朝から秋晴れの良いお天気で参加者24名は「一茶記念館」や「ナウマンゾウ博物館」を見学してお昼をいただきました。



もちろんお土産のお買い物も大いに楽しみ、皆さまとお話を楽しみ交流しながら秋の一日を楽しみました。

八坂公民館主事　中村　和正

きらり話題の八坂人

北アルプス広域シルバー人材センター
八坂シルバー班
会員大募集 !!



八坂シルバー班長　降簱興平さん



八坂シルバー班連絡員
北澤德重さん

10月8日北アルプスシルバー人材センター互助会主催奉仕活動令和8年度は八坂地区では明日香荘の草刈り剪定、清掃が行われました。会員の皆様は明日香荘に集合し周辺の草刈り等の奉仕活動を行いました。

シルバー人材センターでは近年退会者数が新規入会者数を上回る状況が続き会員の高齢化も進んでいる状況だそうです。八坂地区の皆さんもぜひ入会いただくようお願いしたいと八坂シルバー班長の降簱興平さん、連絡員の北澤德重さんがおっしゃっていました。

シルバー人材センターではこんな仕事をお引き受けします。（北アルプスシルバーだよりから）

技能分野
樹木消毒・樹木剪定・冬囲い、取り外し ふすま・障子張替、大工仕事、ペンキ塗 車の運転など

農作業
田畑の草刈り、畑耕耘、草取り、作業補助 葉摘み、収穫など

事務分野
一般経理、受付事務、毛筆筆耕、賞状書き、宛名書き等

屋内・屋外作業
除草、清掃、不用品の片づけ、雪片付けなど

集配・管理
施設管理、駐車場管理、宿・日直、集配、水道の検針、送迎車両の運転など

福祉・家事援助サービス
掃除、洗濯、留守番など

ご興味のある方は毎月第3木曜日に午後1時30分からシルバー人材センター本所（大町事務所）入会説明会を開催しておりますのでよろしくお願いします。

北アルプスシルバー人材センター大町事務所：0261-22-2445

編集後記

今年も台風や大雨など、各地で自然災害のニュースが相次ぎました。近年は「これまでに経験したことのない」といった言葉を耳にする機会も増え、気候の変化を身近に感じることがあります。地球温暖化による気候変動は、遠い世界の話ではなく、私たちの暮らしにも少しずつ変化をもたらしています。雨の影響で稲刈りや脱穀が思うように進まなかった方もいらっしゃったのではないでしょうか。こうした身近な出来事からも、天候が私たちの暮らしや農業に大きく関わっていることを感じます。切久保でも、数十年前は雪が多く、冬になれば雪かきに追われる日が続いたと聞きます。それが近年では、まとまった雪が降る機会も少なくなりました。「雪が少なくて助かる」と思う一方で、雪が少なすぎることで、水資源や農業などへの影響も心配されます。当たり前のように感じている四季の移ろいも、決して当たり前ではないのかもしれません。節電、ごみの分別、マイバッグの利用など、身近なところからできることを少しずつ。これからも春夏秋冬、それぞれの季節を楽しめる、八坂の豊かな自然を未来へ残していきたいものです。

切久保自治振興会　福野　佳和

編集・発行　八坂地域づくり協議会やさかだより編集委員会　TEL0261 - 26 - 2001